



なでしこが その花にもが 朝あさな朝あさな
手に取り持ちて 恋こひぬ日なけむ

おおともはやかもち
大伴家持

「あなたがなでしこの、その花であったらなあ。
そうしたら毎朝毎朝、手に取り持って可愛がらない日はないだろうに。」

大伴家持は、なでしこの花が大好きでした。万葉集には二十六首の
撫子の歌があるのですが、そのうち十一首が家持の歌です。

「なでしこ」というのは「撫でし子」が語源で、かわいいなあと撫でて
育てた大切な子という意味があります。それはいとしい我が子であったり、
愛する女性であったり。家持の歌にも、様々に姿を変えて登場しています。

日本の河原によく生えている繊細な撫子は「カワラナデシコ」、別名を
「ヤマトナデシコ」といいます。日本の素敵な女性のことも、この花の
しなやかさと美しさを込めて大和撫子と呼びますね。

ヨーロッパに自生していた撫子は、カーネーションの元になりました。
大和撫子も、母の日のあの花も同じナデシコだったのです。

かわいい「撫でし子」を素敵な女性に、ぜひ貴方も贈ってみませんか。

(万葉集 卷三 四〇八英語訳 『A Waka Anthology vol.1』 Edwin A. Cranston Stanford University Press)

花万葉



If you were only
One of these flowers, these pinks,
Morning by morning
Taking you into my hands,
Not a day I wouldn't long.

